

「関西生命線」 コード番号：11-A-056

<外国人の親の子育てを支援するための勉強交流会報告書>

【動機】

外国人の親にとって日本での生活は言葉や文化・習慣の違いによる悩みも多い上に、学校や教育における制度や価値観も異なる中での子育ては決して容易ではない。心理的・精神的不安を抱えながら孤立しがちのが現状である。そこで外国人の小・中学生・高校生が安心して学校生活を送れるように、また、その親も同じように安心して子育てができる環境を支援するために「外国人親の子育て支援」事業を企画したのが動機である。

【目的】

外国人の親が子育てる時に心理は、精神的不安をサポートしたりストレスを解消した、親子の精神面の安定を図るのが目的である。

【実施日時】

2011年8月1日～2012年8月1日

【実施内容】

夏休みを利用し、二泊三日でアウトドアでの共同生活の中で、理論と体験学習、3人の講師による講演、ワークショップによる発表。

①外国人の親子の交流キャンプの開催

会場：兵庫県三木市のグリーンピア三木

日時：2011年8月10日（水）～12日（金）

参加者：40名

内容：

8月10日～12日にかけて、関西生命線の重要なイベントの一つである夏休みの3日間の交流会が開催されました。今年の交流会は「外国人が異国適応するための交流勉強会」というテーマでした。参加人数は40名にのぼり、全員がバスに乗れないぐらい大勢でした。例年と違うのは参加者の数が非常に多かつただけでなく、リピーターも多く、新規参加者も非常に多くいました。

初日は例年通り午前10時に大阪中央郵便局の前に集合し、早速兵庫県のグリーンピアに向かい、12時に到着しました。全員研修室で持参のお弁当で昼食をとり、スタッフの紹介とオリエンテーションが行われました。その後、皆で楽しい歌を歌い、ゲームを通じて自己紹介をし、最初の交流会が始まりました。午後2時半くらいに部屋の割り当てが公表され、全員が各自の部屋に荷物を持っていき、午後3時過ぎくらいにプールに行きました。プールに行かない参加者は自然と環境に恵まれたグリーンピア三木で散策し、午後5時半

くらいにホテルのロビーに集合し、午後6時にジンギスカン料理を満喫しました。午後7時過ぎに全員研究室に向かい、そこで歌を歌い、ゲームをした後、テーマに沿った勉強会が始まりました。全員が真剣に問題に取り組み、活発な議論が交わされ、代表者の発表などもありました。午後9時前になると参加者の多くが天然温泉に入り、そこでも交流を深めながら楽しい会話が繰り広げられました。温泉後は、スタッフの反省会が行われ、午後11時に就寝しました。

翌日7時に起床し、8時の朝食バイキングをいただきました。9時に再び交流会が始まり、歌やゲーム以外にグループ別の討論がありました。お昼前にスイカ割り大会があり、その後おいしいスイカをいただきました。その後、昼食をとり、疲れた人は昼寝をしたりしてゆっくり過ごした人もいれば、プールに行く人もいました。夕方6時にまたおいしい料理を頂いたあと、7時半に歌・ゲーム、そして仁恵病院の春田院長を迎えて、面白い話を聞いていただきました。その後温泉とスタッフの反省会が終わり就寝しました。

3日目の朝、8時の朝食が終わった後、参加者が各自の部屋に戻り、荷物をまとめて研修室で集まりそこで楽しい歌を歌った後、全員に感想文を書いてもらいました。10時半くらいにホテルを離れ、グリーンピア三木のグラウンドに向かい、そこで大縄跳び、綱引き、サッカー、ドッジボールなどを楽しくやりました。その後、おにぎりと良く冷えたスイカを頂いたあと、数名の作文をピックアップし発表していただきました。最後に、関西生命線代表の伊藤みどりによる閉会の挨拶で終わり全員がバスで大阪に戻りました。

【参加者の感想文】

中1 大久保祐美

私は初めて第19回目の関西生命線が企画する2泊3日の旅行に参加しました。友達もできました。部屋で変な遊びをして楽しかったです。そしてプールに行って泳いだりもしました。

話は変わりますが昨夜の春田先生がいっていた歴史などについて、教えていただき勉強になりましたが、途中で眠くなり、少しねてしましました。今度参加するときは、寝ないように気をつけようと思います。

特に1日目の夜の花火をして遊んだことが楽しかったです。小さい子は怖がって逃げている子もいました。けど、その後はなれたのか、うぱいあうほど楽しそうでした。今日は最後の1日です。最後まで楽しもうと思います。そしてまた参加できたらいいと思います。

小5 上條理紗

私は、兵庫県にある、グリーンピア三木にきて、いっぱい友達が増えました。5人くらいの友達ができました。みんなでいろんな遊びをしました。一番楽しかったのはゆうれいごっこです。私がゆうれいになってあそびました。春田先生の話が勉強になりました。

とってもたのしかったし、いっぱい友達もできたから来年も行きたいと思います。

小2 こうとくきみこ

グリーンピアで、おねえちゃんとプールにいきました。とてもたのしかったです。イルカさんにのりました。おねえちゃんとおんなじおへやでねました。とてもうれしかったです。おねえちゃんとおんせんにいきました。とてもきもちよかったです。おねえちゃんがおなかがいたくなったら、ちんさんとえをかいておねえちゃんにあげました。とてもよろこんでくれたからうれしかったです。

中3 阪谷知史

ぼくは、グリーンピア三木に連れて行ってもらいました。初めは、子ども3人での参加だったからいろいろ不安だったけれども、いろいろな人としゃべって行くうちに不安もいつのまにかなっていました。みんなといろいろな遊びをしました。たとえばみんなで歌を歌ったりプールで泳いだりスイカ割をしたりいろいろなことをしました。すごく楽しかったです。あといろいろなことが勉強になりました。たとえば、グループ分け討論会の時には中国では手紙のことをトイレットペーパーだと言うことや春田先生の話やいろいろなことが勉強になりました。すごくよかったです。また、グリーンピア三木に行きたいな~と思いました。

徐亦猛

今年、第十九回の夏休みの交流の集いに参加できて、とても感謝です。私は五年連続にこの集いに参加しましたが、いつも楽しい思い出が一杯残りました。新しい友達ができ、楽しいゲームができ、最新の話題に聞かされ、とても楽しい行事が一杯の集いです。

今回、一番楽しかったことは、ひさしぶりに残留孤児の方々とトランプしたこと。私は日本に来て、十数年になりましたが、これほど楽しくトランプをしたのは、九年前のことでした。今回楽しい思い出をつくって下さった関西生命線にお礼を申し上げます。また、次回の参加を楽しみにしています。

遠藤智子

ここ4年ほど、毎年、娘と一緒に参加させていただいている。初めて参加した時は、娘は2-3歳で、抱っこして講義したのを覚えています。その娘も今は小学校2年生になりました。4年前にご一緒した莊さんのお子さんたちも大きくなっていて、とても感慨深い再会でした。

今回は踊りのプログラムを担当しました。演奏家が欠席で、CDもなかったのですが、皆さまの手拍子と歌で踊ることができて、いつも違ったショーになり、楽しむことができました。

今年は年配の方と子どもが多く、お互いに気を配り、大きな家族のように感じました。

荒木美緒

10年前、子どもがまだいなかった頃より参加させていただき、一人また一人と子どもが与えられ、今年は3年ぶりに4人の子どもたちを連れての参加になりました。懐かしい顔ぶれに新

しい参加者の方々が加わり、少ない人数でしたが、大きな家族のような心地良く、温かい雰囲気の中での交流がとても、楽しかったです。

今回初めてのプールは、想像以上に楽しく童心に返って遊ぶことができました。子どもたちは、流れるプールやスライダーが特に楽しかったようです。

また、春田先生に、子育ての悩みを聞いていただきましたが「人の顔がみな違うように、性格も違って当たり前。人それぞれが苦手なこと、得意なことがあって、苦手なところを少しずつできるように導いてあげたり、ゆっくりな所を少しずつ早くできるようにフォローしてあげたりすればいいのではないか～」と優しくアドバイスをして下さったのは、とても大きな励ましになりました。

先生が公演の時に話して下さったように、子どもたちと一緒にスポーツしたり、本を読んだり、散歩したり、共に同じ時間を過ごしていく中で、お互いのよさを発見したり、かけがえのない今の子どもたちとの時間を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、伊藤みどりさん、有美子ちゃん、楊老師、徐牧師、師母、陳さんには、本当に最初から最後までお世話になりました。心より感謝しています。ありがとうございます。

3日間で多くの友が与えられ、日中台を結ぶ素晴らしい思い出深き時となりました。また、来年以降も、愛する皆さんに再会できるのを期待して、皆さんの健康を祈りつつ、筆を置きたいと思います。

林祖炎

本活動の19回目の開催おめでとうございます。代表者伊藤みどりさんの変わらぬ「思いやりの心と尽きぬ「バイタリティ」が本活動を今までずっと支えて、継続的に開催できたとおもいます。

私自身は、今回3回目の参加で、初めて参加したのが18年前、日本に来て2年目でした。当時まだ日本の生活に慣れておらず、いろんな悩みを抱えていました。この活動に参加し、他人との交流や先生の講演会など非常に有意義で、楽しかったのを今でも覚えています。

今回は、妻と子ども二人の家族全員で参加しました。他の家族との交流などで、異文化の中の子育ての難しさや解決法の共有で、以前と違った観点で多くのことが勉強になりました。

最後に本活動の運営を支えていただいた方々にお礼申し上げます。楽しい2泊3日、本当にありがとうございました。

王美蘭

私は今年初めて交流会に参加しました。多くの方に初めて会い、2泊3日の交流会があつという間にすぎるほど楽しく過ごさせていただきました。

私は子ども2人を持っている母親です。子育ての悩みをたくさん持っています。ここで先輩お

母さんのお話をいろいろ聞いて、私と同じ悩みを持っている方もいらっしゃるし、子どもたちはみんなそうではないかと感じ、ほっとしたこともあります。また、春田先生のような専門家の意見も聴かせていただき、たいへん役に立ちました。

子供たちも集団生活を通じてたくさんのお友達ができました。プール遊びもたいへん楽しかったです。とてもいい思い出になると思います。機会があれば、また、たくさんの方に出会えるこの交流会に参加したいと思います。

最後に伊藤みどりさんを初めとする今回の交流会を主催する方々に感謝を申し上げます。

莊発盛

これを書くのは何回目になるのでしょうか。関西生命線は、今回で19回目になりました。まず、驚いたのは、18年前に参加した当時小学校5年生の林祖炎さんが、18年ぶりに自分の奥さんと子供二人を連れてきて、リピーターとして参加してくれたことです。彼は、神戸大学大学院を出て、今や立派な社会人で、一家の大黒柱となり、いろんな有益な話をしてくれる存在になりました。感心しました。

関西生命線のこの活動は、実に多くの人の人生に影響を与え、その中から、さまざまな人物が社会に出て活躍するようになったことを、改めて認識しました。これまで延べ1000人ぐらいの参加者がいたわけですから、皆がどこかでご活躍されていると思いますが、また、この夏の交流勉強会に、自分の家族と子どもを連れてきてくれる信じています。

私は、久しぶりに家族全員6人で参加しました。私の長男と二男は今年もそれぞれ小学校5年生と3年生ですが、18年後に林祖炎さんのように、私の孫たちを連れてきて参加するのを楽しみにしています。

大久保節子

初めて関西生命線の夏休みの交流会に参加しました。3日間、多彩なプログラムでたくさんのこと学び、深いものを感じました。

まず、感動したのは、真面目で、責任があり、さまざまな方面の手配をされているリーダー存在でした。おかげで、私たち一人ひとりが楽しく、充実した時間をおくることができました。

討論には、学者の方々が報告をされました。私たちにとって二代三大に渡る教育の問題が大変重要な課題であることを感じました。自分の子どもたちを教育するにあたって大変役立つ話でした。このような活動を今後も続けられるなら、ぜひ参加したいと思っています。

崔鳳華

関西生命線の遠足に参加したのは2回目。とても嬉しく思いました。3日間の活動の責任者である伊藤みどりさん、陳先生、莊先生はみな、私たちの活動プログラムを作って下さり、温水プールで泳いだり、いろんなゲームをして遊んだりすることができました。子どもと一緒に、活動することは、とても楽しく、童心にかえるような気持ちになりました。

討論の中では、子どもの早期教育の問題があり、それぞれが違った意見をいいました。お年寄りと孫、父母と子ども、年齢が違う人たちからのいろんな角度から意見で大変もりあがりました。特に、中国の姓にするか、日本の姓にするかというところ、日本人の考えを学びつつも、言いたいことは思う存分にいいました。いろんなことに気が付き、目が見開かれた気がします。

さらによいことは、中国からきた新しい友達ができたことです。みんなで、家族ぐるみのつきあいができました。

今回の活動は、私の友達もみな満足し、このような活動があれば参加したいといっています。伊藤みどりさん、陳先生、莊先生、本当に感謝いたします。

斎藤久幸

このたびの活動は大成功でした。交流を通じて、新しい友達もでき、また、いろんな知識が増え、視野が広がり、私の生活も充実しました。

今後、各種さまざまな集団活動が開催されれば、私たちの暮らしの質も一步前進すると思います。

最後に、今回の活動を開催してくださった皆さま、お疲れさまでした。今後、このような会が開かれるときは、友達同士が交流できるように、するために、

それではみなさま、お元気で。

陳建平

はっきりは覚えていませんが今年は何回か目の参加です。第一回の参加がいつだったかはもう忘れてしまいました。毎年同じ場所で開催されますが、参加者は毎年違います。毎年さまざまな趣向が凝らされ、私の頭のなかには、いろいろな記憶があります。子どもたちとの交流は、大人にとってとても学ぶものが多いと思います。たくさんの保護者がそう思ったでしょう。春田先生の講義にあったように、ここが、子どもと保護者が、何かを感じて悟ったり、友達をつくったりする場所になればと願っています。みなさんが、それぞれ満足して、2泊3日を楽しく愉快にすごせるように、一人のボランティアとして、一生懸命努力します。足りないところもありますが、反省して、少しでも進歩させたいと思っています。

感想文 閻桂繁

このたび2泊3日の活動に参加させていただき、とても嬉しく思っています。初めての参加でしたが、来年もあればまた来たいです。参加した人はみんなお互いに関心があり、助けあっていました。飲み物や食べ物、お宿も満足できました。この活動を通して、何人かの新しい友達ともめぐり合いました。以前は、こんな活動があるとは知りませんでした。友達の崔さんが教えてくれました。何人かのお年寄り、何人かの先生、ボランティア方たちと知り合うことができて、

とても嬉しいです。

感想文 崔東愛

今回の活動を主催した関西生命線には大変感謝しています私も子どもも初めての参加でしたが、楽しくて、たくさんの人と知り合いになり、異国の文化を体験し、一緒に遊び、温泉に入り、とてもよかったです。

次回も機会があれば参加して、みなさんと毎日仲良くなり、たくさんのことを話したいです。でも、話すことはそんなにうまくないので、よろしくお願ひします。

私は少数民族の朝鮮民族ですので、字の間違いもたくさんあるかもしれませんのがよろしくお願いします。

繰り返しますが、関西生命線の活動に感謝しています。

成長 楊麗珍

関西生命線の第19回、「夏休み外国人が異国で適応するための交流勉強会」に私は参加しました。そこで、18年前当時、5年生だった林祖炎さんを知りました。18年前、彼とご家族は日本に来て、異国の生活になれない中、差別をうけました。生命線でいろんな活動を通して、彼は、異国の文化との違いについて理解し、勇気をもって前に進みました。そこから大きく成長し、優れた国際貿易のビジネスマンとなりました。

中国だけでなく、外のアジアの子どもたちにも、日本国籍の子どもがいる時代です。外国人にとって日本はどうかという、単純な問題ではありません。異国人と、つきあって、20年近くになります。この交流会で出会った子どもたちもまた、さらに成長し、国際人となって出ていくでしょう。

私は一人の外国人の子どもがいる母親です。関西生命線の異国からきた子どもたちをこのような交流会に参加させていただき、感謝感激しています。関西生命線は、子どもたちに天にはばたく翼を与えてくれました。

感想文 鄒霞英

私は日本にきて6年と少し経ちます。今回は初めて、関西生命線の中日交流会に参加しました。この交流会によって、新しい知識と感覚を得ることができました。

まず、この交流会は、子どもの教育に関する講座がありました。私は2人の子の母親で、この分野に関心があり、子どもたちのことも心配しています。昨夜、春田有二先生が私たちに3子どもたちと暮らすための2つのアイデアをくださいましたが、とても腑に落ちるものでした。

一つは、できるだけ子どもと一緒に外の世界にでてみること。二つ目は、子どもたちとできるだけ一緒に家にいて、家事をすること、ごはんをつくり、掃除をして、楽しみや趣味をも一緒にします。できるだけ自分にもいいことをし、子どもにもいいことを一緒にやるのです。三つめが、一緒にテレビをみるとこと、遊ぶこと。このような遊びながら学んでいくことにより、子どもは

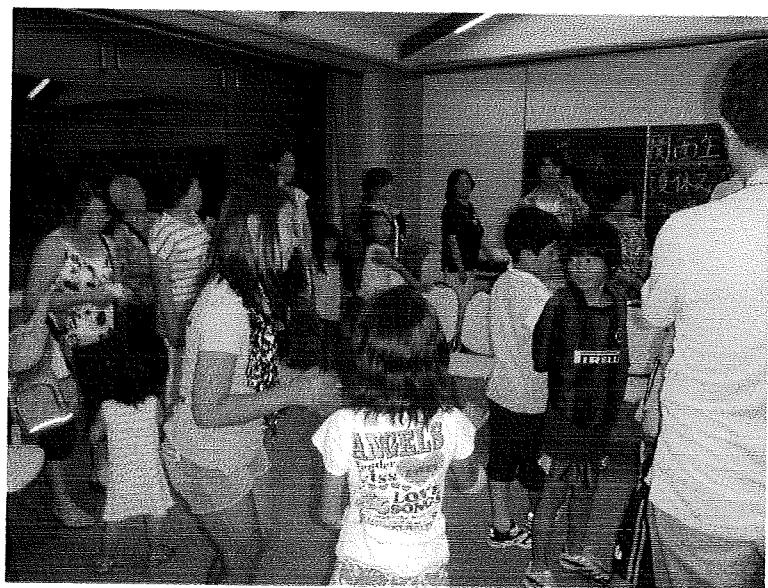
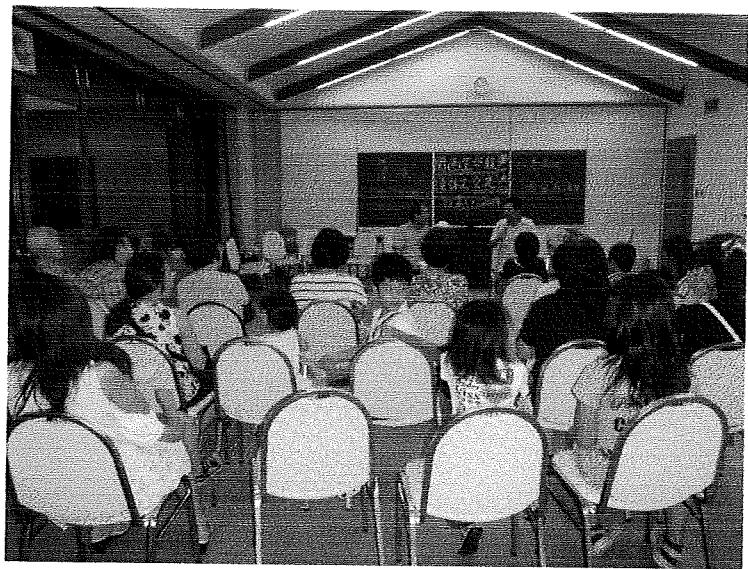
心の扉を開いてくれ、親のことを友達のように思い理解します。

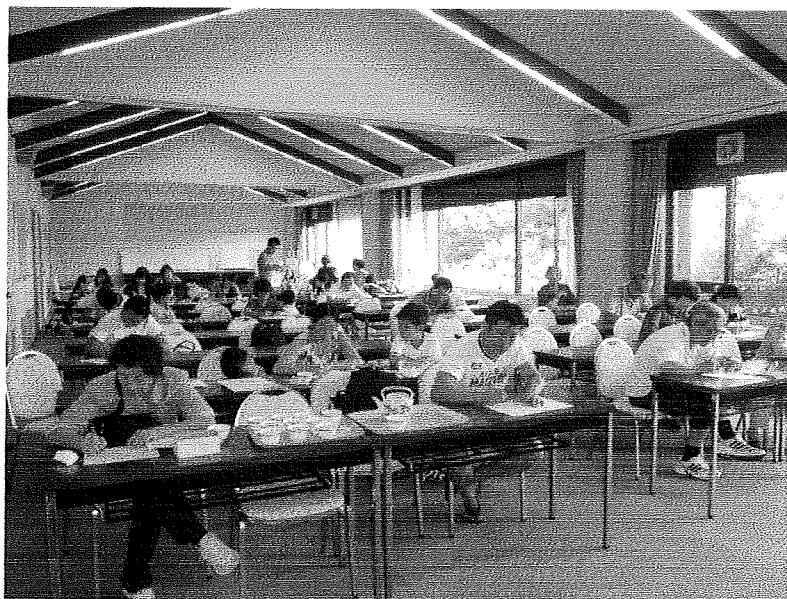
私も、これからはもっと工夫をして、もっと積極的に母親になってみようと思っています。

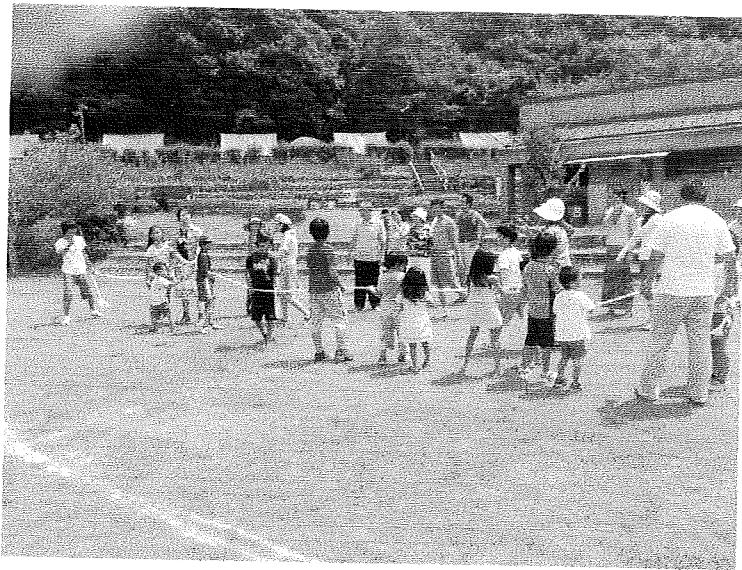
さらに、子どもたちは喜んで遊び、おいしそうにごちそうをたべていることが、私にとってさらに嬉しいことでした。

最後に、伊藤先生、その他の先生、ずっと見守って面倒をみてくださったことに心より感謝いたします。また機会があれば、ぜひこののような活動に参加したいと思います。









②2011年9月30日（水）参加者15名

テーマ：「外国人児童・生徒の悩みについて」

講師：橋本和明先生（花園大学社会福祉学研究科教授 臨床心理士）

内容：外国人の児童・生徒が日本の学校に通っている時に一番心配なのは、言葉と日本人の友達になれるかということである。いわゆる、コミュニケーションがうまくとれるかということだ。一般では年齢が小さいほど早く適応できる。また、ご両親とも外国人である場合は、国語や作文が苦手であるのが現状である。現場の先生がこのような生徒に対して熱心に接し、指導してくださっている。たとえば、毎日の日記や作文を子供に書かせ、それを先生が添削指導すれば少しずつでも書く能力を高めることができる。また、小学校の場合、国語の本をお手本として写すというのも一つの方法である。

質疑応答の内容は以下のとおりであった。

参加者：日本の学校では宿題が少ないのだが大丈夫か？

講師：なぜ宿題が多いほうが良いと思うのか。

参加者：より脳への刺激が増えて良いと思う。中国では一般的に時間内に何問解けるかということを繰り返し行っている。

講師：私の子供が小学生の時、公文に通い成果があった。それに見習い私も学校で実践したが、できる子とできない子の差がひろがりやめた。どうしても物足りないと思ったなら、家庭学習やドリルなどをやってはどうか。この場合は子供が意欲を持って取り組めるものを選択すべきであり、母親は励ますのみである。

参加者：小学校生活で身につけるべきことは色々ありますが、特にこれというのは何でしょうか？

講師：表現力です。自分の思いを相手に伝える。相手の感情を害することなく伝えることが大切です。

参加者：親としてどうしてやればよいのか？

講師：表現の場を増やす。つまり、話を聞いてやること。例えば帰宅後「今日学校でどうだった？」と聞いてあげる。これだけでも良い。子供の人格生成は初期には母親が大きく影響し、後期には父親の影響も加わる。

参加者：子供の小さい頃、淋しい思いをさせた。申し訳ない思いが今もあるのだが。

講師：なぜその淋しい思いにその子供が耐えられたか。親がしていることはしっかりと子供は見ているのです。耐えられるだけの子供に育ったのは、親子関係がそれまでにしっかりと

育っていたからでしょう。



③2011年10月26日（水）参加者16名

テーマ：「外国人の親の子育ての現状」

講師：リングホーファー・マンフレッド先生（大阪産業大学人間環境学部教授）

内容：中学生の難しさについて主に質疑応答形式で進められた。

★参加者の意見

- ・中学校生活のことが分からない。
- ・いじめのことも心配していたが、自分の子がいじめる方にまわっていたのでびっくりした。すぐにやめるように注意したのだが…。
- ・校区が広がるため通学にも時間がかかる。
- ・6年生の男子が塾に通いだしたのだが、マンツーマンコースと受験コースと極分化されていたのが塾の現状。勉強ができないから入塾させたいのに、入塾テストで「不可」だった。現在も宿題を自主的にしないのちちょっと大変。やる気のなさが気になります。

☆講師の意見

中学校になると急激に勉強量が増えるので、小学生の頃から一日少しでもいいから勉強する時間を必ず習慣づけた方が良い。例えば、国語だと漢字の練習などで、算数だと中学校の基礎となるので夏休みを利用して問題量をこなしていくのが良いと思います。

★ 参加者

いつから自分で勉強をしたくなるのか？

☆ 講師

約束を決めてする。「30分勉強する」その後に遊びを。時間を決めても良い。本人も納得する形で決める。よく遊べることは褒めてやれるところ。友人と遊ぶことでいろいろ学ぶことはある。一方で勉強はきっちりさせるが親は基礎の部分を見てやればよい。

今は中学校に入ると夏休みはほとんど塾になる。それも一年生からずっと通っている。勉強ができる喜びを本人が味わう必要があるため、個々人に合った塾に通うことは良い。

昔は欠点を指摘してそこを直させる指導がメインだったが、今は生徒の長所を見つけ出し、褒めて伸ばす指導方針となっている。つまり、テスト問題が簡単になってきている。

国語では作文が苦手な子が目立つ。時間がかかるため、授業でもあまり取り上げないようになっているが、特に外国籍の親の家庭では助詞の使い方が難しいようである。中学生になると恥ずかしいという気持ちが出てくるので、小学生のうちに直せるものは直した方が良い。例えば、一日3文くらい文章を作って先生に添削してもらう。

中学校に入ったら、クラブに入るのがおすすめ。クラスは毎年組替えがあるが、クラブは3年間同じなので仲間との結果が強いので卒業後も付き合いが続く。



④2011年11月30日（水）参加者13名

テーマ：「多言語教育の大切さ」

講師：林田雅至先生（大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授）

内容：今から30年前は、外国人といえば在日韓国・朝鮮人が90%でしたが、今ではその割合が3%にまで減り、中国人の滞在が急増した。日本の教育は日本人向けで閉鎖的。オリジナリティーを捨てさせる教育。在日～2世は自分自身を低く見てしまい、自身喪失する傾向が。社会・職業差別を受ける。3世は親が勉強会を開き話し合う。自国の言葉・文化を学ぶ場を作る。教育は一人ではダメで、仲間が必要。仲間と頑張ることで目標を達成しやすい。ロールモデル（目標とする人物）を持ったり、夢を持つことが肝心。今回のように、大人が集まって勉強会を開くことはとても重要なことです。

家庭では中国語で話しかけた方がよい。二ヶ国語を持つことは財産である。かつてハーフ Half といったが、今ではダブル Double といわれている。現在の中国（在日）人の環境はかつての在日朝鮮人の時とは違う。一握りの人が行った良い事や悪い事を全体に広めるステレオタイプが多い。



【今後の課題】

このたびは貴財団のご協力のおかげで引き続き外国人の親の子育てを支援するための勉強交流会を開催することができました。心より感謝申し上げます。今後の課題としては、ニーズに応じた活動を企画する際、いかに助成金を確保していくかであります。